

ヒントとアイデアを集めたい70周年記念担当

ナナマルワークス

特集

メインイヤーを終えて

東海村発足70周年記念事業担当者インタビュー

Vol. **23**
Mar. 2026

NANAMARU
WORKS





特集1 メインイヤーを終えて

東海村発足70周年記念事業担当者インタビュー

村発足70周年記念事業担当

“1つでも多く記憶に残る” そんな70周年記念になって いたらうれしい。

令和6年4月、村発足70周年記念事業担当が立ち上がり、70周年記念事業がスタートする。構想・準備・実施と、怒涛の2年間を駆け抜けてきた担当者に話を聞いた。



鈴木 政策推進課 係長



荻野 政策推進課 主事



佐藤 政策推進課 職員



林 生涯学習課 主任



高増 生涯学習課 主事

総勢5名の担当者が語る 70周年事業への想い

鈴木 さっそくですが、皆さん70周年記念事業のメインイヤーを終えてみてどうでしたか？印象に残っていることなど、教えてください。

荻野 私は、令和6年の10月採用ということで、途中から担当になったのですが、この1年半は、5・6年分の月日があったような…そのぐらい濃かったですね。例えば、70周年記念公式Xで行っていた「100日カウントダウン」東海村の発足記念日の100日前から、毎日カウントダウンの投稿を行ったり、思ったようなペースで作品が集まってこなかったタイムスリップフォトコンテストにハラハラしたり…

鈴木 たしかに、タイムスリップフォトコンテストは募集開始時は作品が集まらず、企画実施できるのかとハラハラしましたよね。結果として51点の素晴らしい写真が集まりホットしたのは今となっては良い思い出ですよ(笑)。

佐藤 私は、村内の小中学生から募集した”ロゴマーク作り“ですね。(このロゴが出来上がらなければ70周年は始まらない)という思いで、計画から募集までを無我夢中で駆け抜けました。集まった作品はどれも素敵で、みんな東海村のことを考えながら描いてくれたことが伝わってきました。

鈴木 1つしか選べないのがほんとに辛苦くなるぐらい、みんな一生懸命描いて応募してくれましたよね！

佐藤 ロゴマークが入った東海村の階段サインやのぼり旗、横断幕など、村内に広がり「70周年が浸透した」と実感できた時は格別でしたね。

林 私は、70周年記念に向けて令和6年の10月から6回に渡って連載をした「村民の記憶 -東海村、その時、あなたは-」が思い出に残っていますね。多くの方にインタビューをして、事実の裏側にある想いを知ることができたことは大きな収穫となりました。

鈴木 あの連載は、初めて知ることも多く、読みながら「へー！そうだったんだ！」と楽しみながら読んだ記憶がありますね。

高増 私は記念式典で上映した、記念動画の撮影が印象深かったです。シナリオ作成から撮影、そして出演してくれた劇団とみかるの“天才”子役の存在まで。出来上がった動画は式典でも大きな拍手をいただき、自治体として誇れるクオリティになったと思います。

鈴木 この動画は東海村の公式YouTubeから見られるので、ぜひ多くの方に見てほしいですよ！



▲他にも数多くの動画があるのでぜひ見てほしい。

70周年記念の多様な情報発信

それぞれの媒体の特徴を生かして

広報紙

募集や記録、情報発信など20の話題について、2年間で合計28ページの掲載を行った。



YouTube

村長メッセージや著名人からの応援コメントなど、合計16本の動画をアップした。(令和8年3月現在)



公式X

SNSの特徴を生かし、タイムリーな話題や遊び心あるポストを約500件行った。(令和8年3月現在)



Instagram

タイムスリップフォトコンテスト70年分のただいまの応募・情報発信を行った。



立ちはだかる難題 チームワークで突破

佐藤 記念式典に向けた関係各所との調整は本当に大変でしたね。
鈴木 たしかに…あの時期が1番過酷でしたね(苦笑)
佐藤 限られた時間で演出や進行の細部まで妥協せず形にする…幕が上がる直前まで緊張が続きました。
一同 (深くうなずく)
荻野 大変なことはありましたが、周りの方々に助けられてここまで来られたので…4月からは担当者の人数も減ってしまい…もしかすると私にとっての『大変』はこれからかもしれない(笑)震えています、やるしかない!という気持ちです。
鈴木 声をかけてくれればいつでもヘルプに行きますので(真剣)
林 私は生涯学習課との併任という立場だったので、皆さんほどの大変さはなかったのかもしれませんが。
高増 私も、林さんと同じ立場なので、おそらく皆さんほどの大変さはなかったかなと。
林 ただ、生涯学習課の業務と70周年記念の業務が重なったときは、周りの職員たちに助けってもらいましたね。そういった支え合いがなければ成り立たなかったのかなとも思います。
鈴木 このメンバーで、チームワークでなんとか乗り切れたという印象ですね。みんな健康で乗り切れて本当に良かった!(苦笑)

荻野 健康には自信があるので(笑)
鈴木 じゃあ4月から大丈夫そうか…?
荻野 急に自信がなくなってきたかも…
一同 (笑)

東海村発足70周年 記念誌発行に向けて

鈴木 いよいよ来年度は記念誌の発行となります。東海村発足70周年記念誌は、行われたすべての事業を網羅して掲載すべく、メインイヤー終了後の令和8年度に完成を目指し取組んでいくわけですが、こちらの記念誌作りをメインで進めていく林さんと高増さん、見どころを教えてください。
林 今回の記念誌は、従来の自治来の記念誌によくあるような、年表形式で歴史を振り返るのではなく、その当時を生きてきた、歴史を作ってきた人々の声を聞き、歴史の合間に隠される村民やまちづくり側の想いを振り返っていけるような記念誌を作っていきたいと考えています。

高増 すでにインタビューも始めていて、数々の貴重な話を聞くことができています。文化協会のお話など、記念誌を通して、ぜひ皆さんに知ってほしいですね。
鈴木 話を聞いているだけで、ワクワクするような…早く読んでみたいです!
荻野 記念誌の発行は、令和9年の3月頃を予定しています。図書館やコミュニティセンターなどの公共施設や、村内の小中学校などに設置予定です。また、電子図書として、村の電子図書館でも気軽にどなたでも読めるようになる予定です。
佐藤 自宅に居ながらスマホで読むことができるんですね。
鈴木 ちょっと振り返ってみても、たくさんの方が思い出される70周年記念、村民の方々の記憶に少しでも残ってくれていたら嬉しいです。そして、80周年、90周年、100年と、歴史をつないでいってほしいですね。
佐藤 周年記念は色々大変なこともあるかもしれませんが、非常にやりがいのある仕事ですので、楽しみながらバトンをつないでいってほしいです。心から応援しています!

まとめ

- ✓ 担当者もそれぞれ心に残る70周年記念だった。
- ✓ 周りの方々の支えのおかげで乗り越えられた。
- ✓ 来年度はいよいよ記念誌発行へ。乞うご期待!

チームななまる
TEAM NANAMARU



「ナナマルワークス」は、行政マガジン「ジチタイワークス」のデザインをモチーフに制作しています。制作にあたり、株式会社ジチタイワークスの許可を得ています。